



野生生物取引と動物由来感染症

メディア勉強会 12月17日(木)

WWFジャパン

野生生物グループ 浅川陽子



発表内容

- なぜ動物由来感染症は増えているのか
- 野生動物取引と感染症
- 日本の責任と課題
- ワンヘルスの実現に向けて





発表内容

- **なぜ動物由来感染症は増えているのか**
- 野生動物取引と感染症
- 日本の責任と課題
- ワンヘルスの実現に向けて





増加する新興感染症

- 毎年5つ以上の新たな感染症が発生し、そのうちひとつはパンデミックを引き起こしている
- 新興感染症のうち70%が動物由来
- 発見されていないウイルス(哺乳類・鳥類) は推定170万。
人間に感染しうるウイルスは、最大で85万

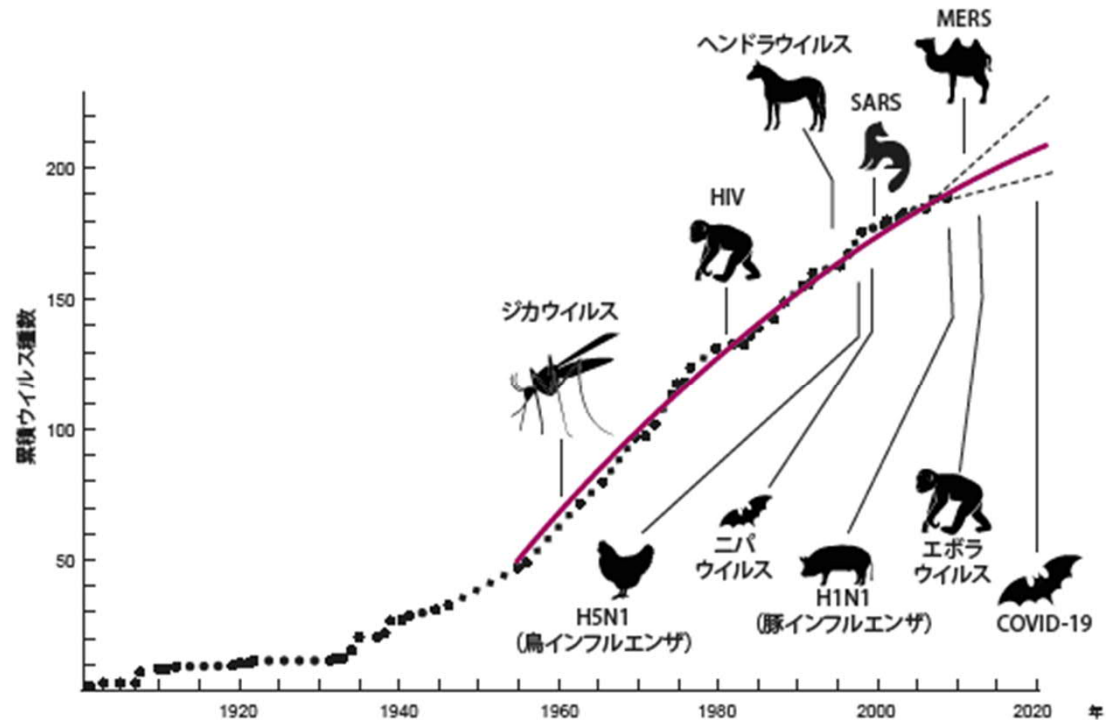


図2：人への感染が確認されているウイルスの累積発見数

動物由来感染症が発生する仕組み

図1：野生動物－家畜－人間での病原体の流れ



野生動物との距離が近づくことで スピルオーバーが発生
未知の感染症の発生リスクが高まる



新興感染症が増える背景



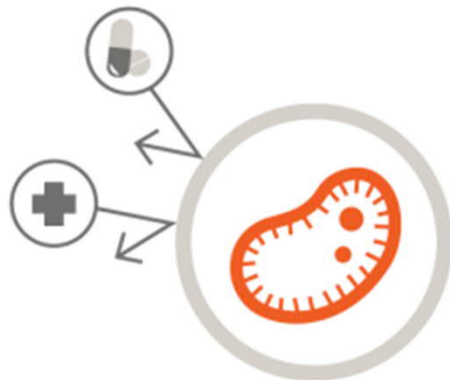
森林減少
土地利用改変



違法・規制が不十分な
野生生物取引



集約型農畜産業



薬剤耐性



気候変動



発表内容

- なぜ動物由来感染症は増えているのか
- **野生動物取引と感染症**
- 日本の責任と課題
- ワンヘルスの実現に向けて





海外の野生生物取引市場

- ウェットマーケットの存在
- 肉やペット、その他の利用(伝統薬など)を目的として野生の動物を販売している
- 既知の感染症を保有する感染症ハイリスク分類群の取引

ハイリスク分類群	感染症数
げっ歯類	85
食肉目	83
霊長類	61
有蹄類	52
コウモリ	25
トガリネズミ	21





事例1: 野生生物の消費とSARS

- 重症急性呼吸器症候群
- 2002年、中国広東省が起源
- 致死率9%: 世界で死者774人
- 推定経済損失: 415億ドル以上
- 感染源について結論は出していないが、発生地での野生生物市場にいたハクビシンが媒介動物となった可能性が示唆
- 元の宿主はキクガシラコウモリが疑われる





IPBES Workshop on Biodiversity and Pandemics

- すべての陸生脊椎動物の約24%が国際取引されている
- 合法的な野生生物取引市場の経済的価値は過去14年間で、5倍以上増加し、2019年には1,070億USDにも及ぶ。
- 違法な国際取引は、年間70～230億USDと推定されている。



IPBES WORKSHOP
ON BIODIVERSITY
AND PANDEMICS

EXECUTIVE SUMMARY

Intergovernmental Platform on
Biodiversity and Ecosystem Services





中国：野生生物の取引禁止

- 2020年2月24日：野生生物の食用消費禁止（法改正）
 - 伝統薬、皮革・装飾品等の製品、ペット利用などは対象外
- 2020年6月9日報道：センザンコウを伝統薬リストから除く
- 2020年10月9日報道：一部の野生動物の繁殖を禁止





ベトナムー規制・執行強化

- 2020年7月23日：野生生物取引対策強化（首相令）
 - 違法市場の閉鎖、野生生物飼育繁殖の取り締まり、輸入一時停止、法令改正検討等





発表内容

- なぜ動物由来感染症は増えているのか
- 野生動物取引と感染症
- **日本の責任と課題**
- ワンヘルスの実現に向けて







[yvonne.n](#) from willowick, usa





日本のペット輸入量

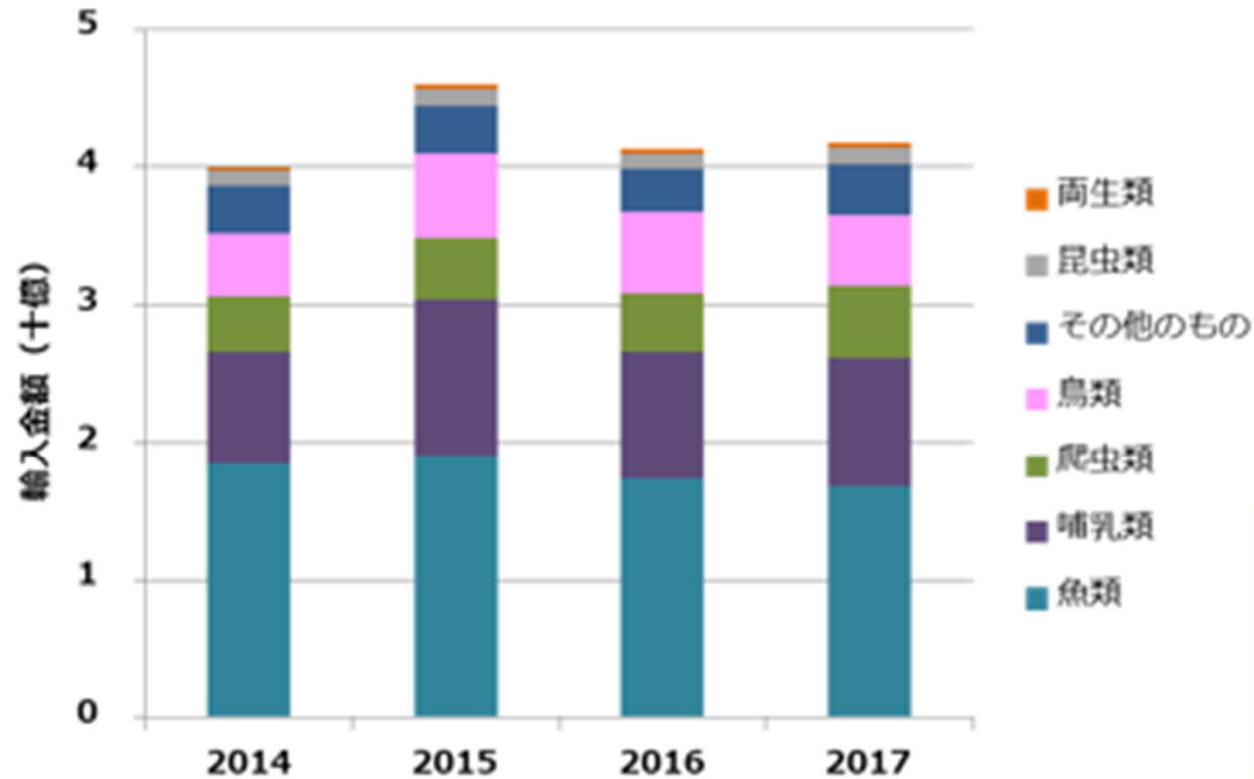


図1. 日本のペット輸入量の推移

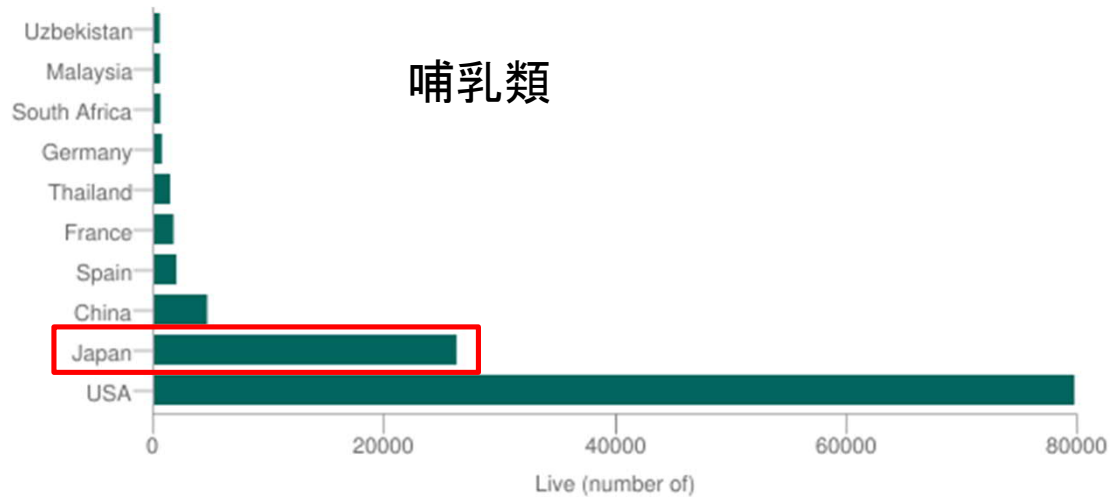
財務省貿易統計よりWWFジャパンが推定*

*輸入統計品目より、ペットとしての輸入が主だと思われる品目を抽出し、輸入量を算出

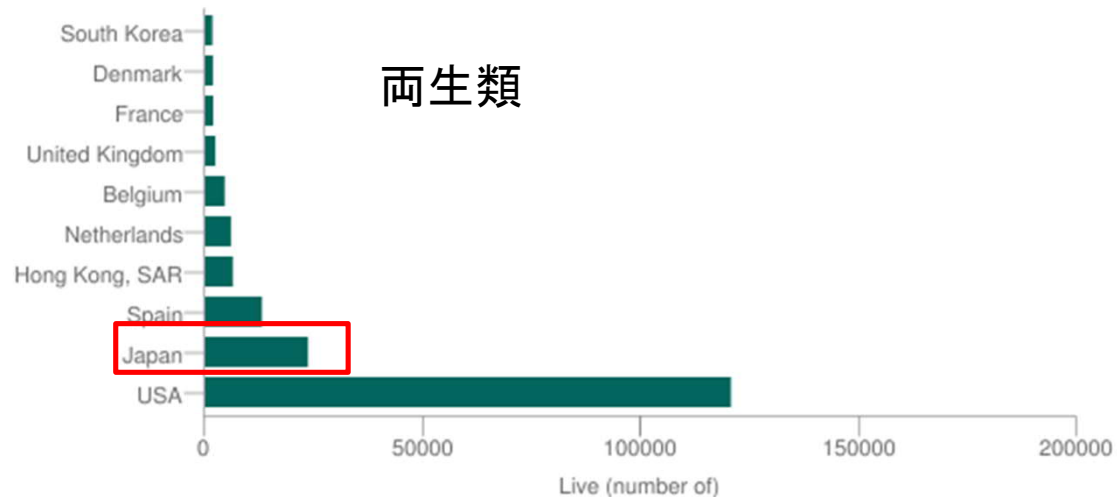


日本の責任 - 生きた動物の輸入大国

ワシントン条約： 輸入トップ10（生きた動物） 2014-2018



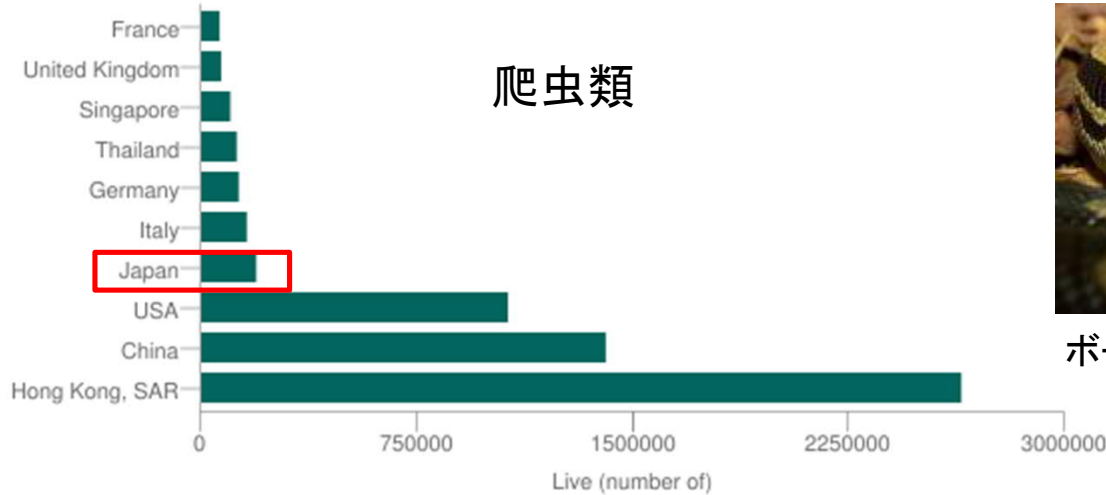
カニクイザル *Macaca fascicularis*



アカメアマガエル *Agalychnis callidryas*

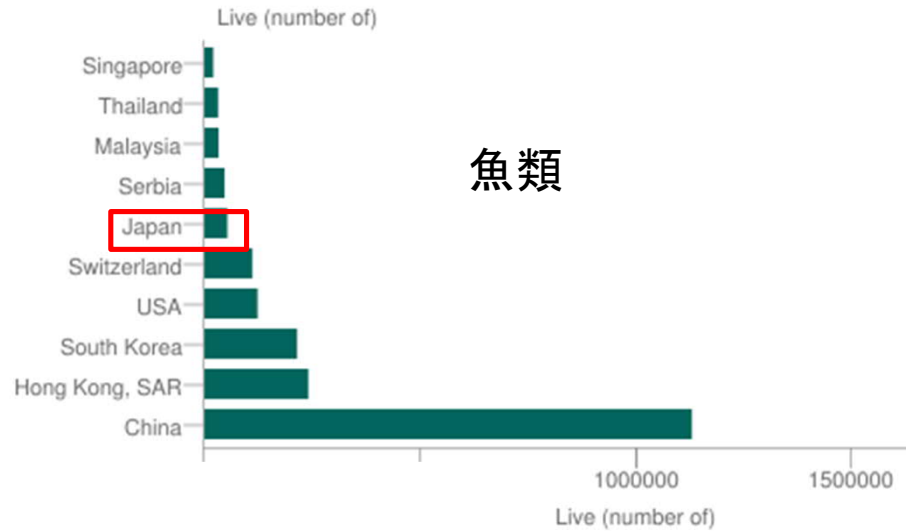


爬虫類



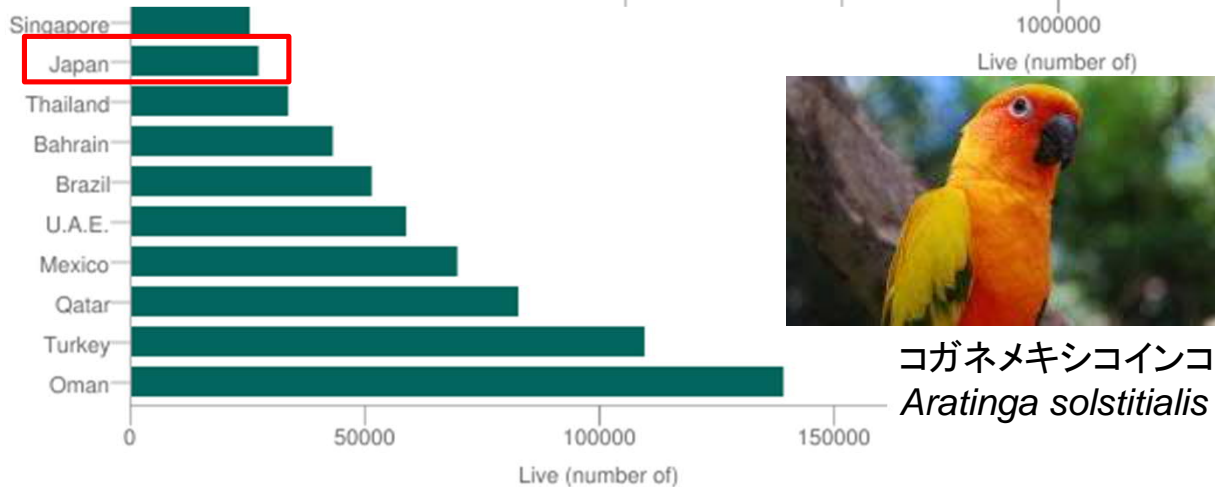
ボールパイソン *Python regius*

魚類



アジアアロワナ
Scleropages formosus

鳥類



コガネメキシコインコ
Aratinga solstitialis



日本への密輸で押収されている動物



- TRAFFIC調査 2020年6月発表
 - 2007年から2018年の間に計1,116匹のエキゾチックペットが押収
 - カメ、ヘビ、トカゲなどの爬虫類が70%
 - 小型のサルやフクロウなども多数





ハイリスク分類群が密輸

感染症法で輸入が禁止される動物

- ・ サル目185匹、コウモリ目10匹の差止※あくまでワシントン条約違反
- ・ 輸出元は主にタイ、次いでインドネシア。中南米やアフリカ原産の種も。

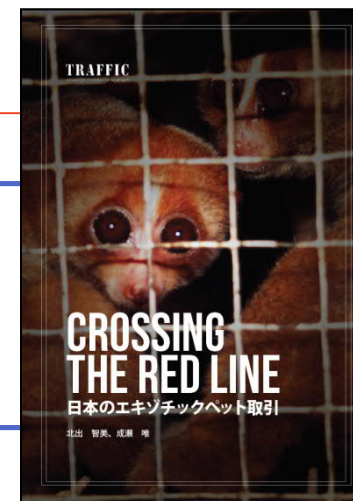


表1 2007年～2018年に日本に向けた密輸として押収された動物の一部

動物 (学名)	場所 (匹)	
	日本	海外
コウモリ目 (Chiroptera)	10	
サル目 (Primates)	185	34
カワウソ亜科 (Lutrinae)	14	43
トビネズミ科 (Dipodidae)		4
ウッドチャック (<i>Marmota monax</i>)		4
フェネック (<i>Vulpes zerda</i>)	1	2
ベンガルヤマネコ属 (<i>Prionailurus spp.</i>)	2	
フクロウ目 (Strigiformes)	43	11
タカ目 (Accipitriformes)	11	16





アジアの市場とのつながり

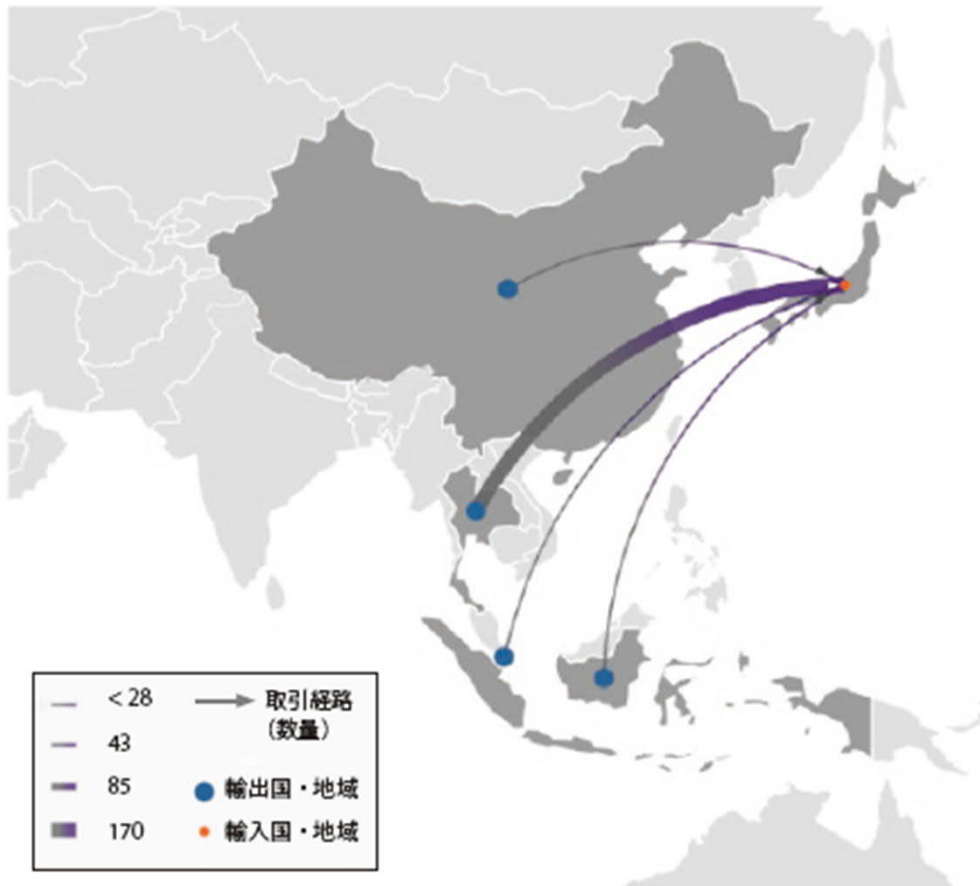


図2 2007年～2018年に日本の税関でワシントン条約違反として差し止めされた哺乳類の輸出国 (N = 219匹)

日本向けの密輸として日本の税関に差止された

動物の91%

➡ 東南アジア、東アジアから

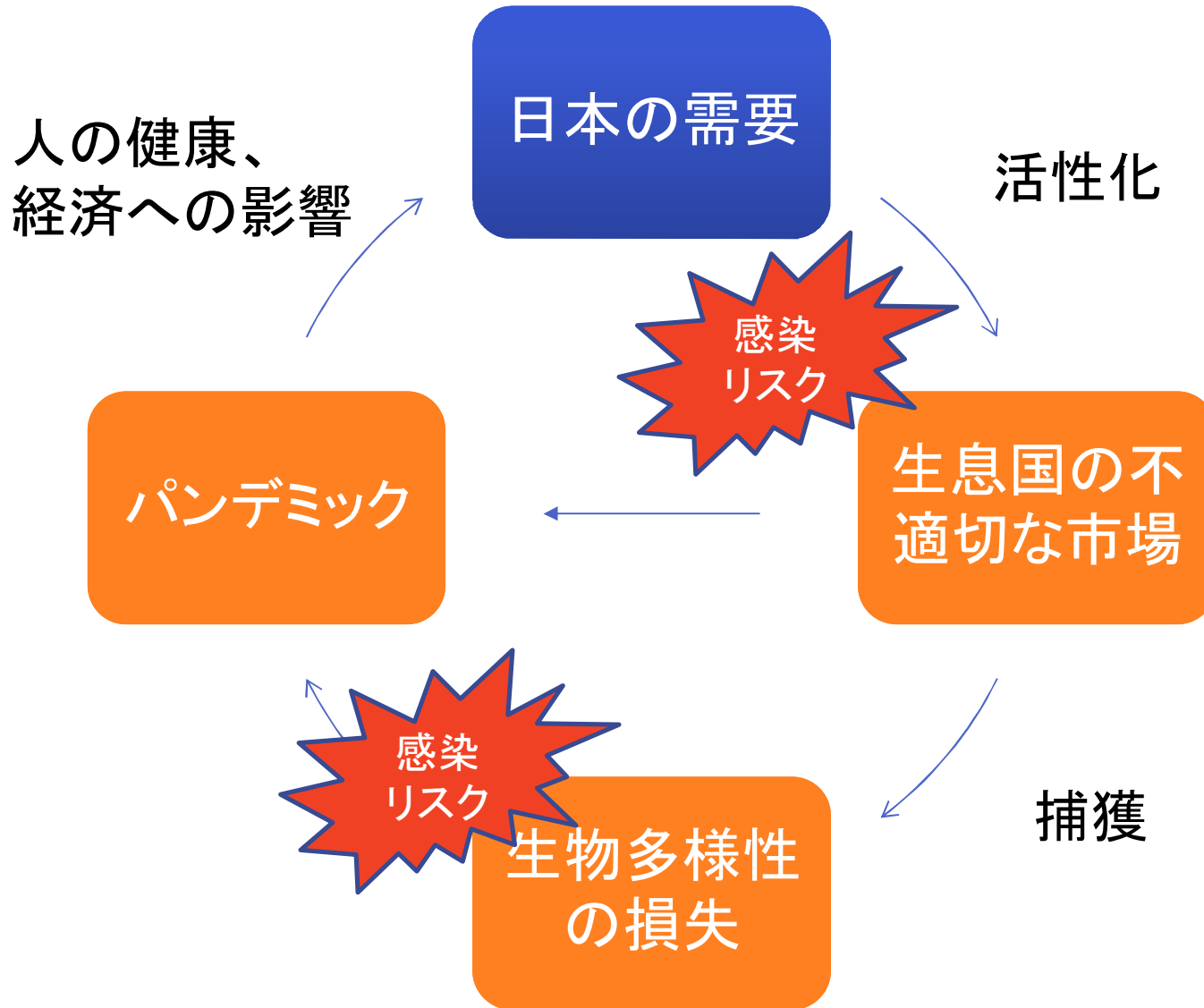
哺乳類、鳥類

➡ 100% アジアから

・日本とアジアの
市場のリンク
・エキゾチックペット
需要がアジアの市
場を活発化



ペット需要と感染症リスク





マンハッタン原則

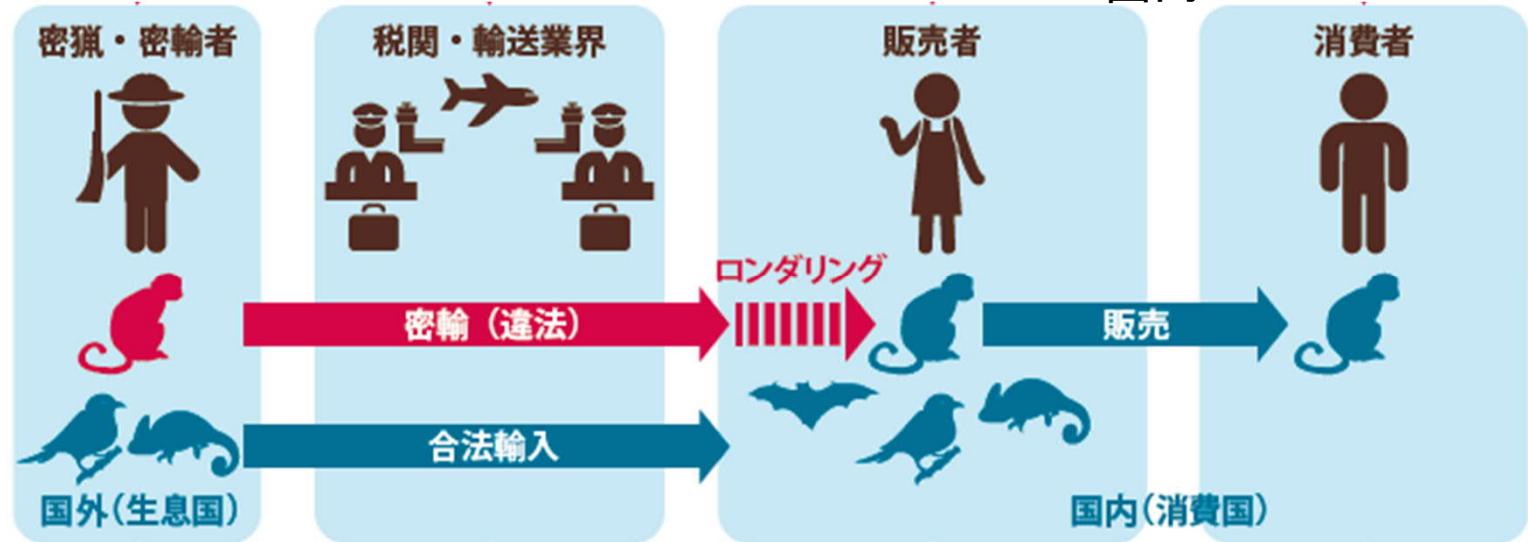
1. 人、家畜、野生動物の健康が生物多様性と生態系機能にリンクしていることを認識する。
2. 土地と水の使用法の決定が健康維持に深く関連することを認識する。
3. 野生動物の健康科学は、グローバルな疾病の予防、監視、規制の強化と緩和に不可欠である。
4. 人の衛生プログラムが環境保護活動に大いに貢献することを認識する。
5. 種を超える新興・再興感染症の予防、監視、規制の強化と緩和等の前向きな取り組みを進める。
6. 感染症の脅威を解決しようとする場合、家畜の健康に関する要望と生物多様性・保全を十分に統合する。
7. **生きた野生動物や、その肉類の国際的貿易量を減らし、規制する。**
8. 疾病制御のために野生動物の大量処分を行う場合でも、国際的、科学的な同意が必要である。
9. 衛生に関する国際的インフラ投資、国際的な人と動物の健康監視とタイムリーな情報交換能力が必要である。
10. 政府、地域住民、私的・公的部門が、生物多様性等保全のために協力体制を確立する。
11. 新興・再興感染症の脅威に立ち向かう早期警戒体制を確立するため、国際的野生動物疾病監視の支援を行う。
12. 世界の人々の教育と啓蒙、健康と生態系の統合に関する深い理解が必要である。



ペット取引の構図

国外

国内



対象種・規制を定めるためのリスクアセスメントの再実施！

感染症法
・輸入規制
・水際監視

罰則強化

狂犬病予防法
・輸入検疫

厚労省

動物愛護法

感染症法で輸入が禁止されている動物については、取引禁止とする

環境省



参考：日本の輸入規制

感染症法、狂犬病予防法に基づく輸入動物の水際対策概要

対象動物 (生きた動物に限定)	対策	確認された感染症例
イタチアナグマ、タヌキ、 ハクビシン、プレーリードッグ、 サル、コウモリ、ヤワゲネズミ	輸入禁止	エボラ出血熱、 マールブルグ病、 重症呼吸器症候群 (SARS)、 ラッサ熱、ペスト
イヌ、ネコ、アライグマ、キツネ、 スカンク、特定地域のサル (試験 研究・展示用)	輸入検疫	狂犬病、野兔病
全ての陸生哺乳類、鳥類	輸入届出	ウエストナイル熱、 オウム病、 鳥インフルエンザ



今見直すべき輸入と国内取引規制

■ 日本政府や政策決定者

- ・生きた動物の輸入、及び国内取引において、感染症リスクが高いと考えられる種や分類群のリスク評価の実施し、輸入規制対象種の追加、国内取引規制の見直しを含めた検討
- ・罰則の強化

■ ペット事業者

違法、合法にかかわらず持続可能かつ人の健康に配慮した調達のための自主的な調達方針の策定に取り組むべき

■ エキゾチックペット飼育者・消費者

エキゾチックペットは未知の病原体を保有している可能性があること、自らの需要が自国のみならず生息国での感染症リスクを高めていることを認識する必要がある。安全性や合法性が確認できないエキゾチックペットの購入は控え、すでに飼養しているエキゾチックペットについては、適切な衛生管理下での終生飼育も徹底するべき



参考：海外の生きた動物の輸入規制

国	法律	輸入できる動物
オーストラリア	バイオセキュリティ法	特定の国からのイヌ、ネコ、ウマ、鳥（一部の種）
ニュージーランド	バイオセキュリティ法	許可された国からイヌ、ネコ、ウサギ、モルモット、チンチラ
シンガポール	動物鳥類法	イヌ、ネコ、ウマ、ウシ、ヒツジ、ヤギ、ブタ、ヒワトリ、アヒル ※それ以外の動物の輸入、所持は許可が必要



発表内容

- なぜ動物由来感染症は増えているのか
- 野生動物取引と感染症
- 日本の責任と課題
- **ワンヘルスの実現に向けて**





国際-One Healthに向けた動き

- ・2020年7月 UNEP “Preventing the next pandemic - Zoonotic diseases and how to break the chain of transmission”
環境のステークホルダーを巻き込んで、健康管理政策の改善を目指すべき
- ・2020年9月 地球規模生物多様性概況第5版(GB05)
SDGsの達成、人と自然の共生する社会を目指すため、重要なテーマのひとつとしてワンヘルスの位置づけ
- ・2020年9月 国連自然と人々のためのリーダーズ・イベント -各国リーダーたちの「自然回復の誓約」-健康と環境の持続可能性に対する統合的な取り組みに関し、あらゆるレベルのすべての関連政策及び意思決定プロセスにワンヘルスアプローチを取り入れる
- ・2020年10月 IPBES “IPBES WORKSHOP ON BIODIVERSITY AND PANDEMIC”
パンデミック防止のため、関係セクター間での調査、及び発生コントロールのために各国政府にワンヘルスの制度化を求める
- ・2020年11月 UNEPがOIE、WHO、FAOのTripartiteに加わる
- ・2020年12月 CBD SABSTTAの決定
生物多様性をOne Healthアプローチに統合する方法に関するガイダンス
- ・ G20環境大臣会合 コミュニケ
One Healthの視点からも国際協力の必要性



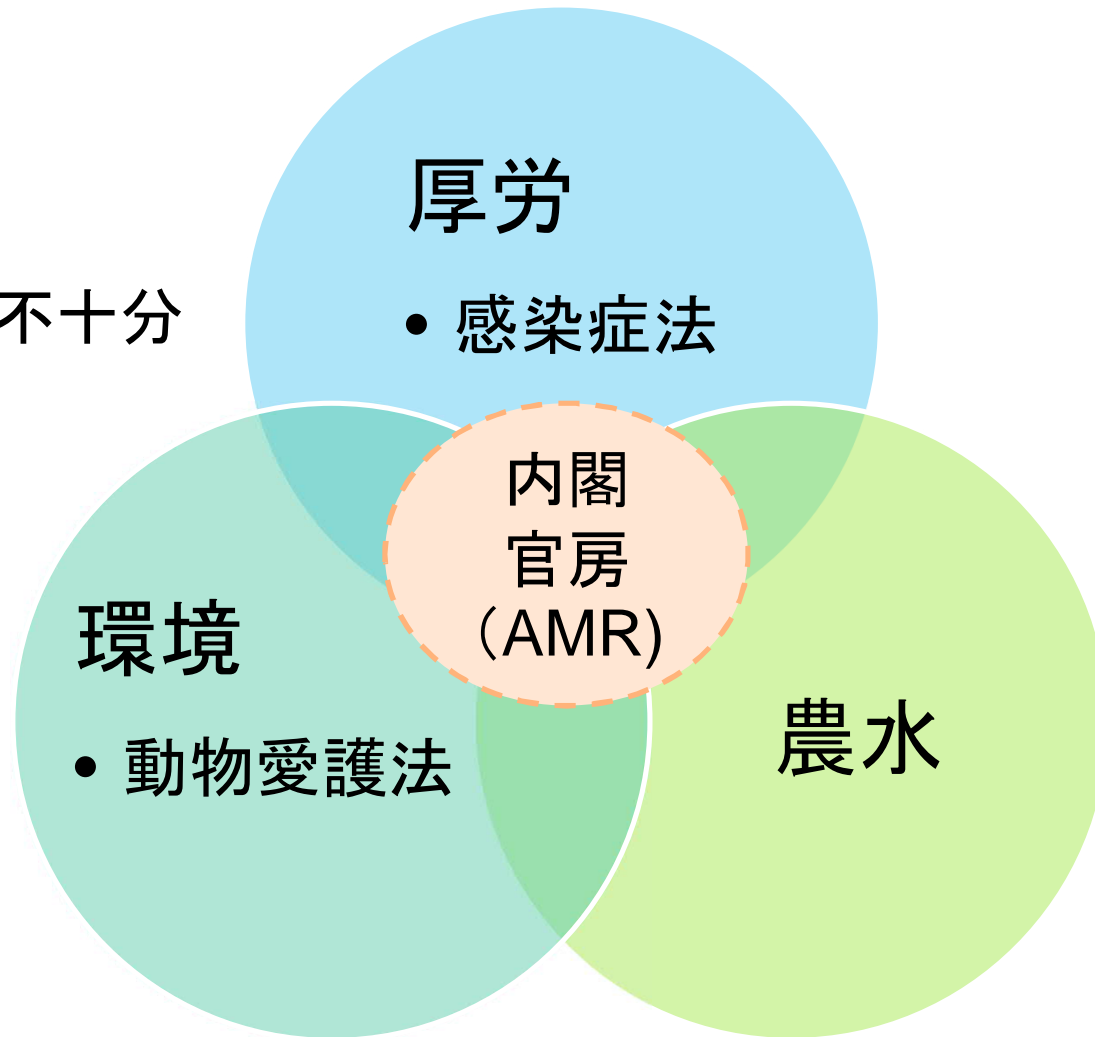
国内-One Healthに向けた動き

- ・2020年5月 日本医師会、日本獣医師会
新型コロナウイルス感染症禍を踏まえた「ワンヘルス」の実践に関する共同声明
- ・2020年6月 日本獣医師会
新型コロナウイルス感染症等動物由来の人と動物の共通感染症に対する「ワンヘルス」の実践に関する決議
環境保全・また、家畜だけでなく、愛玩動物や野生動物を含むすべての動物の感染症等の調査研究、水際防疫等強化の必要性
- ・2020年10月 福岡県 ワンヘルスフェスティバル
医療、獣医療、双方の研究の交流および人材育成の拠点の整備が必要であり、その拠点となる「アジア防疫センター」の設置を目指す
- ・2020年12月 福岡県 ワンヘルス条例の採択
http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/pdf/20201126_onehealth.pdf



連携の必要性

連携は不十分





人、動物、生態系の健康はひとつ ~ワンヘルス共同宣言シンポジウム

■ 趣旨

シンポジウムを政府関係者、専門家、国際機関の間の連携する架け橋とし、自然と人間、野生生物と生態系の調和のとれた共存を目指す。

■ 目的

- 動物由来感染症の予防策として重要な環境保全に関する側面を、政策に盛りこむための議論を開始する機会を提供する。
- 人と自然の調和のとれた社会を実現するための、有識者による共同宣言書を発表し、日本政府に手交する。

■ 共同宣言

人と動物の医療や公衆衛生の専門家、環境保全に携わる機関・団体は、日本、そして世界での新興・再興感染症の出現予防、パンデミック防止に向け、「人」「動物」「生態系」の健康をひとつと考えるワンヘルスの理念のもと、それぞれの力を集結、連携し、さらに政府との対話を通じて、ワンヘルスの実現に取り組んでいく。



人、動物、生態系の健康はひとつ ～ワンヘルス共同宣言シンポジウム～

- ・日時:2021年2月13日(土) 13時00分～17時30分
- ・開催形態:オンライン
- ・主催:WWFジャパン
- ・共催:(一社)リアルコンサベーション、IUCN日本委員会
- ・後援(依頼予定):省庁、福岡県、横浜市、環境系団体、感染症系団体、医療系団体、日本動物園水族館協会
- ・参加費 無料
- ・参加対象者:一般、有識者 他
- ・言語:日本語